

# 家 庭

## 1 家庭科の学習指導の改善

### (1) 学習指導の改善の視点

普通教育としての家庭科は、家族・家庭についての理解と共に生きる生活観の育成、家庭生活事象の根底にある原理・原則についての科学的理解や理解したことを実際の生活の場で実践できるための技術の習得、生活を総合的に認識し、何がよいかを判断する意思決定能力、課題を解決する問題解決の能力などを育成し、家庭生活や地域の生活を創造できるようにすることを目指していることから、①実践的・体験的な活動を中心とした学習指導、②地域や学校、生徒の実態に応じた指導、③問題解決的な学習を重視した指導を行うことが大切である。

### (2) 効果的な学習指導

ア 生徒の特性を十分理解し、個に応じた指導の充実を図ること。

イ 実践的な態度を育てるため、調査・研究・観察等の実験・実習の充実を図ること。

ウ 社会の変化に主体的に対応する能力と態度を育てるため、問題解決的な学習の充実を図ること。

エ 生徒の学習意欲を喚起し、学習効果を高めるため、情報手段や教育機器等の活用を図ること。

## 2 評価の工夫

### (1) 評価の基本的な考え方

生徒のよい点や進歩の状況等を積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い、生徒の学習意欲の向上に生かすことが大切であることから、次のような視点に立って評価を行う。

#### ア 指導の改善に生かす評価

生徒が意欲をもって積極的に学習に取り組むためには、指導過程において適切に評価を行い、生徒の学習状況を把握して指導にフィードバックするなど、指導と評価の一体化を図る。

#### イ 指導目標と評価の観点の明確化

指導目標を明確にし、評価の観点ごとの評価規準を設定するなど、指導計画と評価計画を作成する。

#### ウ 意欲を高める評価

評価は、生徒の学習意欲や向上心をより高めるための動機付けをするものであるから、授業中など指導過程の様々な場面において、生徒の反応や考え方、行動の仕方等を的確にとらえ評価する。

### (2) 評価の方法

ア 学習指導要領及び同解説書をもとに各項目で育てる資質や能力を、評価の観点（関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現、知識・理解）ごとに明確にし、評価規準を作成する。

イ 題材ごとに「指導と評価の計画」を作成し、指導目標を明確にするとともに、評価場面や評価方法を具体的にする。

ウ 授業において生徒の学習状況を評価する際には、各観点の学習状況が把握できるような学習カード、ペーパーテスト、自己評価表、相互評価表などを工夫し、その状況を評価補助簿に記入するなど、生徒の学習状況を的確に把握する。

エ 評価の結果を、指導方法、教材や題材の見直しなど指導の改善に活用する。

オ 各観点到に重み付けを行うなどして各観点別評価を総括し評定する。

(3) 評価の観点と観点的趣旨

次の表は、現行と新学習指導要領の普通教育の家庭の目標、評価の観点的、その趣旨を示している。

	学習指導要領（現行）	学習指導要領（新）
目 標	家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の意義を理解させるとともに、家庭生活及び関連する職業に必要な能力と主体的、実践的な態度を育てる。	人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

評価の観点	観点的趣旨（現行）	観点的趣旨（新）
関心・意欲・態度	家庭に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
思考・判断	家庭に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	家庭や地域の生活について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。
技能・表現	家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。
知識・理解	家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、家庭生活の意義や役割を理解している。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

### 3 学習指導案の作成

- (1) 科目「家庭総合」
- (2) 単元「人の一生と家族・家庭」
- (3) 題材「自分らしく生きる」

#### ア ねらい

自分らしいライフスタイルを形成するために各自や家庭・社会に存在する性別意識を問い直すとともに、男女が共に築く男女共同参画社会の在り方を考えさせる。

#### イ 評価の観点

- (ア) 関心・意欲・態度 自己や家庭・社会に存在する性別意識に関心を持ち、個性や能力等を生かして生活しようとしているか。
- (イ) 思考・判断 自己の課題を解決し、将来のライフスタイルを想像できたか。
- (ウ) 技能・表現 自分の意見を表現するとともに、相手の意見を尊重することができたか。
- (エ) 知識・理解 男女共同参画社会の意義を理解し、家庭や社会の形成者としての意識がもてたか。

#### (4) 指導案(例)

	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点			
				ア	イ	ウ	エ
導 入	1 男らしさと女らしさ	(1) 各自がイメージする男らしさと女らしさを記入する。 (2) ジェンダーなど女性問題に関する用語を理解する。	・ ガイドブックに記入する。	○			○
展	2 ジェンダーチェック	(1) ジェンダーチェックをグループで行う。 (2) 回答「YES・NO」の根拠を話し合い、意見をまとめる。 (3) 回答を模造紙に表示する。	・ 1班4人程度のグループを作る。 ・ ガイドブックのジェンダーチェック項目で行う。 ・ チェック項目を縦軸に、YES・NOを横軸に書いた模造紙を黒板に貼る。	○	○		○
	3 意見交換	(1) 項目ごとにグループで意見を交換する。 (2) 他のグループの結果を見て、気付いたことや問題点等を各自まとめる。 (3) 社会の慣習として残っている性別役割分業等をクラス全体で話し合う。			○	○	
開	4 男女が共につくる社会のための法律等	(1) 男女雇用機会均等法、労働基準法、育児・介護休業法、男女共同参画基本法等を理解する。 (2) 法律等の成立は、性別役割分業の解消に役立つか検討する。 (3) 男女が共に築く家庭や社会の在り方について意見交換する。	・ ガイドブックの資料を活用する。 ・ 家庭生活や保育の学習との関連に配慮する。 ・ 法律等が整っても、個人の意識が大切であることに気付かせる。	○			○
ま と め	5 自分らしく生きる～ライフプランを考えよう	(1) 現在の自分を見つめ、将来の職業、結婚、理想の家庭等を考える。 (2) 3年後、10年後、20年後のライフプラン(生活設計)をまとめる。	・ ガイドブックに記入する。	○	○		
						○	○

(資料) 男女平等教育ガイドブック「OVER THE GENDER 自分らしくあなたらしく」(北海道環境生活部発行)

#### 4 質疑応答

問1 家庭科の学習指導を総合的に行うためには、どのように指導計画を立てるとよいか。

学習指導要領では、人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させ、家庭生活を営むために必要な知識や技術を総合的に身に付けさせることを目指している。学習指導要領の学習項目は指導の順序性を示していないことから、他の項目との関連を図り、指導の要点を明確化したうえで、系統的、発展的な指導ができる題材を設定するなど工夫する。また、題材を設定して学習計画を立てる場合は、学習指導要領の学習項目がすべて含まれていることが必要である。

(指導計画例)

題材「共に生きる」

学習項目	内 容	主な体験学習	学習指導要領（家庭基礎）の項目
1 共に育つ	・乳幼児の心身の発達と生活 ・親の役割と保育	・保育所や幼稚園の訪問	(1) 人の一生と家族・福祉 イ 乳幼児の発達と保育・福祉
2 共に暮らす	・生活設計と家庭経済 ・家族の生活と健康 ・消費生活と環境	・ライフプラン ・調理実習 ・住宅の設計 ・環境家計簿	(1) 人の一生と家族・福祉 ア 生涯発達と家族 (2) 家族の生活と健康 (3) 消費生活と環境
3 共に支える	・高齢者の生活 ・バリアフリー住宅 ・高齢者の福祉	・高齢者施設の訪問	(1) 人の一生と家族・福祉 ウ 高齢者の生活と福祉

問2 ホームプロジェクトの指導上の留意点はなにか。

衣食住や家族・保育などの学習した知識と技術を生かして、生活上の課題解決を図るなどの問題解決能力の育成を一層重視する観点から、ホームプロジェクトを履修させることが大切である。家庭科の学習効果を上げるためにも、生徒自身の課題意識と解決の方策の検討、実践など自分で考え工夫する問題解決的な学習の機会を確保することが重要である。指導に当たっては、次のことに留意する。

- ① 学習内容を生徒の生活と結び付けて考えさせ、常に課題意識をもたせるようにして題目を選定させる。
- ② 課題の解決に当たっては、まず、目標を明確にして綿密な実施計画を作成させるとともに、生徒の主体的な活動を重視し、教師が適切な指導・助言を行う。
- ③ 学習活動は、計画、実行、反省・評価の流れに基づいて行い、実施過程を記録させる。
- ④ 実施後は、反省・評価をして次の課題へとつなげるとともに、成果の発表会を行う。

また、評価については4つの観点別評価をもとに、評価規準を作成するとともに、生徒の個人内評価を重視し、次の課題解決のために意欲的に取り組む態度の育成を図ることが大切である。